

「【第2弾】歌舞伎や映画、大切な日本の文化を次世代に残す。」 プロジェクト成立 御礼

当館は昨年に引き続き、今年も【第2弾】としてインターネットを利用した支援募集を行いました。

平成25年度の図書館運営費として200万円に加えて映画雑誌『蒲田週報』の解体及びデジタル化資金50万円で、目標金額は250万円、募集期間は9月18日～11月6日の50日でした。

お蔭様で、**243**人の方から目標金額を上回る**291**万の支援金をお寄せいただきました。皆様の厚いご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

フェイスブック、ツイッター、ブログ、口コミ等で情報を広めた下さった方、「いいね!」を押して応援して下さいました**3400**人を超える方々、そしてプロジェクトを全面的にバックアップして下さいました松竹グループの皆様、Ready for?の皆様、本当にありがとうございました。

お寄せいただいた支援金のうち200万円は、平成25年度の図書館事業の運営費として使わせていただきます。また目標金額を上回った支援金により『蒲田週報』は、当初は予定していなかった脱酸性化処理もできることになり、オリジナルのより良い状態での保存とデジタル化による活用を行うことができます。

資金がないからとあきらめるのではなく、皆様に呼びかけてご賛同をいただき、図書館が行うべき新たな事業の一步を踏み出せることは大変意義深いことと思っております。

『蒲田週報』のデジタル化計画は「東京新聞」にも取り上げられ、記事が掲載されました。

昨年に引き続き支援して下さいました方、今年初めて参加して下さいました方、今回も240名以上の支援者に支えられ、この演劇と映画の専門図書館を維持していけることは大きな喜びです。

さらに、インターネットはしないけれど支援しますと、直接当館にご寄附を下さった方もありました。応援して下さいますすべての方に深く感謝しております。

これからもさらに皆様のお役に立ち、社会に貢献できる図書館でありつづけるよう努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



【第2弾】歌舞伎や映画、大切な日本の文化を次世代に残す。
by 須貝 弥生

演劇・映画専門の松竹大谷図書館には、勘三郎さんや團十郎さんの思い出の舞台の台本が保存されています。【第2弾】ではさらに、貴重な日本映画の資料を「デジタル化」し、未来に残します。

プロジェクトが成立しました!

達成率	達成金額	終了日
116%	2,910,000円	11月6日

■ 松竹系 10月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『通し狂言 義経千本桜』	○		○	○
新橋演舞場	『大和三銃士 虹の獅子たち』	○		○	○
三越劇場(日本橋)	『婦系図』		○	○	○
日本特殊陶業市民 会館(名古屋)	『鳴神』	○		○	
	『鷺娘』				
	『与話情浮名横櫛』	○			
	『西郷と豚姫』	○			
	『於染久松色読販 お染の七役』	○			
南座(京都)	『アマテラス』			○	○
松竹座(大阪)	『新・油地獄 大坂純情伝』	○		○	○
	『榎茂都 三人連獅子』				
	『通し狂言 夏祭浪花鑑』	○			

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『人類資金』	○	○	○		○

■ 映画プログラム ■

- | | | |
|--|----------------|------------------|
| 『死霊館』 | 『グランド・イリュージョン』 | 『恋するリベラーチェ』 |
| 『キタキツネ物語 -35周年リニューアル版-』 | | 『2ガンズ』 |
| 『42 世界を変えた男』 | 『キャリー』 | 『怪盗グルーのミニオン危機一発』 |
| 『サイド・エフェクト』 | 『私が愛した大統領』 | 『ルノワール 陽だまりの裸婦』 |
| 『鷹の爪GO 美しきエリエル消臭プラス』 | | 『ウルヴァリン：SAMURAI』 |
| 『謝罪の王様』 | 『パッション』 | 『ビザンチウム』 |
| 『劇場版 ATARU THE FIRST LOVE & THE LAST KILL』 | | |
| 『ダイアナ』 | 『陽だまりの彼女』 | 『スティーブ・ジョブズ』 |
| 『ゴースト・エージェント R. I. P. D.』 | | 『潔く柔く』 |
| 『豪華3本立て! トミカ・プラレール映画まつり』 | | 『ある愛へと続く旅』 |
| 『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々：魔の海』 | | |
| 『劇場版 SPEC 結 (クロース) 漸 (ゼン) ノ篇』 | | |

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂ACTシアター	10月	30-DELUX Remake Theater『DESTINYデスティニー』プログラム
大阪新歌舞伎座	9月	『元禄チャリンコ無頼衆 浪花阿呆鴉』プログラム 梅沢富美男劇団・劇団ワハハ合同公演『男の泉 史上サイテーのオカマー座』プログラム
	10月	『歌いつづけて40年 天童よしみ歌謡大全集』プログラム
吉祥寺シアター	9月	葛河思潮社第三回公演『冒した者』プログラム
	10月	ala CollectionシリーズVol. 6『秋の蛸』プログラム
国立劇場小劇場	9月	文楽公演『通し狂言 伊賀越道中双六』プログラム、床本
国立劇場大劇場	9月	声明公演『天野社の舞楽曼荼羅供』プログラム 特別企画公演『日本の太鼓 祈り、千里に響く』プログラム
	10月	十月歌舞伎公演『一谷嫩軍記 陣門・組討・熊谷陣屋／春興鏡獅子』プログラム
国立文楽劇場	9月	特別企画公演『田楽と猿楽 中世芸能をひもとく』プログラム
こまばアゴラ劇場	9月	KUDAN Project『真夜中の弥次さん喜多さん』プログラム
サンシャイン劇場	10月	TAKUMA FESTIVAL JAPAN『晚餐』プログラム
サンモールスタジオ	9月	劇団HOBO第五回公演『犬、だれる』プログラム
ザ・スズナリ	9月	風琴工房code 33『hedge』プログラム 劇団道学先生『シンフォニ坂の男』プログラム
シアターオーブ	9月	『ミュージカル ロミオ&ジュリエット』プログラム
シアタークリエ	9月	『ミュージカル ネクスト・トゥ・ノーマル』プログラム
シアターコクーン	9月	KERA meets CHEKHOV Vol. 1/4『かもめ』プログラム
滋賀県立文化産業会館	10月	『伝統と創造シリーズIV「語り継ぎゆくもの」』プログラム
四季劇場・秋	9月	劇団四季『昭和の歴史三部作 ミュージカル 李香蘭』プログラム
自由劇場（四季）	9月	劇団四季『A CHORUS LINE コーラスライン』プログラム
帝国劇場	9月	『DREAM BOYS JETドリームボーイズ』プログラム
豊島公会堂	10月	『かぶくものたち×池袋』プログラム
富山県教育文化会館	9月	ハンガリー・グリフ人形劇団『民話劇 三年寝太郎』プログラム
俳優座稽古場	9月	劇団俳優座公演No. 316『三人姉妹』プログラム、台本
俳優座劇場	10月	『2LDK』プログラム
博多座	10月	浜木綿子芸能生活60周年記念『新版 人生は、ガタゴト列車に乗って…』プログラム、ポスター
文学座アトリエ	10月	アトリエの会『未来を忘れる』台本
三越劇場（日本橋）	9月	OSK日本歌劇団『L' Arc-en-Ciel虹色のパリ』プログラム
明治座	10月	『コロッケ特別公演』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『文学部・文学研究科学術研究論集』2012年度3号	『日本照明家協会誌』2013年10月号
『舞踊芸術』2013年11月号	『日本舞踊』65巻11月号
『Confetti』2013年NOVEMBER Vol.107	『OISTAT日本センターNEWS』2013 JULY Vol.9
『伝統文化新聞』2013年(89号)	『大向う』平成25年11月号
『演劇界』2013年12月号	『ラ・アルプ』2013年11月号
『華風』2012年12月号	『SePT倶楽部 information』2013年7月号,10月号
『悲劇喜劇』2013年11月号	『シアターアーツ』2013年秋(56号)
『ひろば』2013年127号	『シアターガイド』2013年12月号
『邦楽の友』平成25年11月号	『新橋東会だより』18号
『ジ・アトレ』2013年7月,10月	『テアトロ』2013年11月号
『JPL』2013年Autumn No.51	『東京かわら版』2013年6月号
『喝采』2014年1月	『やそしま』6号
『国立演芸場公演ガイド』平成25年11月号	『the座』2013年76号
『日本芸術文化振興会ニュース』平成25年11月号	

■ 映画雑誌 ■

- | | |
|---------------------------|---|
| 『ドラマ』2013年11月号 | 『NFCニューズレター』2013年10月-11月号 |
| 『映画テレビ技術』2013年11月号 | 『NFCカレンダー』2013年10月号 |
| 『映画芸術』2013年秋号(445号) | 『日経エンタテインメント!』2013年11月号 |
| 『映画時報』2013年10月号 | 『ピクトアップ』2013年12月号 |
| 『映画秘宝』2013年11月号,12月号 | 『SCREEN』2013年12月号 |
| 『衛星劇場プログラムガイド』2013年11月号 | 『シナリオ』2013年12月号 |
| 『エキブ・ド・シネマ』2013年No.196 | 『シナリオ教室』2013年11月号 |
| 『FLIX』2013年12月号 | 『シネ・フロント』2013年9月号 |
| 『キネマ旬報』2013年11月上旬号,11月下旬号 | 『友 I w a n a m i H a l l 』2013年秋号No.379 |

■ 書籍 ■

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------------|--------------|
| 『歌舞伎 新版』 | 河竹登志夫(著) | 東京大学出版会 |
| 『芸と噺と 落語を考えるヒント』 | 松本尚久(著) | 扶桑社 |
| 『古曲会五十年のあゆみ』 | | 古曲会 |
| 『財団法人上方文化芸能協会三十周年記念誌』 | 上方文化芸能協会(編) | 上方文化芸能協会 |
| 『佐野碩と世界演劇 日本・ロシア・メキシコ “芸術は民衆のものだ”』 | 篠山紀信(写真) | 早稲田大学演劇博物館 |
| 『十八代目中村勘三郎』 | 早稲田大学演劇博物館(編) | 世界文化社 |
| 『大学文化資源の情報発信 演博改革の10年 鳥越館長の時代』 | 木村涼(編) | 八木書店 |
| 『八代目市川團十郎展』 | 大木シエキエルチャック絢深(編著) | 早稲田大学演劇博物館 |
| 『Finding Shakespeare』 | 小林信彦(著) | 早稲田大学演劇博物館 |
| 『新編われわれはなぜ映画館にいるのか』 | | キネマ旬報社 |
| 『歌舞伎小道具附帳 其の壱』 | | 藤浪小道具 |
| 『染五郎の超訳の歌舞伎』 | 市川染五郎・7世(著) | 小学館 |
| 『動乱と演劇 ITI 紛争地域から生まれた演劇その4』 | 荒井富雄(著) | 国際演劇協会日本センター |
| 『松竹青春物語 忘れ得ぬ戦後松竹黄金期』 | | 大空出版 |
| 『玉三郎 “美” の世界展』 | | 南座 |
| 『写真集 歌舞伎座』 | 安齊重男(著)、松竹(編)、大谷信義+迫本淳一(監修) | 松竹 |
| 『歌舞伎台帳集成 第12巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第13巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第15巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第16巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第17巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第18巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第19巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第20巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第21巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第22巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第23巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第24巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第25巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第26巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第27巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第34巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第41巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第43巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |
| 『歌舞伎台帳集成 第45巻』 | 歌舞伎台帳研究会(編) | 勉誠社 |

(新規登録資料案内 書籍 続き)

『江戸時代伊勢商人の文芸活動の研究 石水博物館(津市)所蔵文献資料を手がかりに 研究成果報告書』	安田文吉(著)	安田文吉
『戎百福物語 なんば戎橋商店街100周年記念誌』		戎橋商店街振興組合
『大倉舜二展「仕事ファイル1961-2002」』		リクルート
『おくりびと オフィシャル・メモリアルブック』		ゴマブックス
『「男はつらいよ」寅さんロケ地ガイド』		講談社
『加藤泰、映画を語る』(ちくま文庫)	加藤泰(著)、山根貞男+安井喜雄(編)	筑摩書房
『近代茅ヶ崎の群像』		茅ヶ崎市史編集委員会
『地芝居残存台本調査による歌舞伎作品変遷史研究』	安田徳子(著)	安田徳子
『芝居アルバム1 海老蔵・友右衛門』		芝居アルバム刊行會
『十二代目市川團十郎丈を偲んで 一期一会』		エルビユー
『少年口伝隊一九四五』	井上ひさし(著)	講談社
『大菩薩峠 四幕十一場』		新國劇
『殺陣師段平』		新國劇
『蓼科日記抄』	蓼科日記刊行会(編)	「蓼科日記」刊行会(発行)、小学館スクウェア(発売)
『常磐津節演奏者名鑑 第2巻 近世2:創流期から幕末期までの三味線方』		常磐津保存会
『中村獅童 活動10周年記念』		中村獅童事務所

資料をご寄贈くださった方々(敬称略・順不同/2013年8月~9月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、衛星劇場、株式会社東急文化村、パルコ劇場、劇団民藝、国立劇場、劇団四季、博多座、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、株式会社日本舞踊社、舞踊芸術社、文学座、演劇出版社、東京大学出版会、日本アカデミー賞協会、関西・歌舞伎を愛する会、筑摩書房、テアトル・エコー、明治座、大谷信義、一般社団法人日本民間放送連盟、銀座 博品館劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)、キネマ旬報社、株式会社カモミール社テアトロ編集部、公益社団法人日本照明家協会、伝統文化新聞、ロングランプランニング株式会社、シアタークリエ、吉田枝里子、日本劇団協議会、飯田市人形劇資料調査活用実行委員会、国文学研究資料館、愛知県文化振興事業団、(株)近代映画社、神戸女子大学古典芸能研究センター、新国立劇場情報センター、日本映画撮影監督協会、岩波ホール、ポーラ文化研究所、加藤健一事務所、人形劇団プーク、邦楽の友社、おもだか会、銀座百店会、三越劇場、フィルムセンター、劇団俳優座、ジェイ・クリップ、東宝株式会社、帝国劇場、株式会社ホリプロ、日本映画テレビ技術協会、シナリオ・センター、四季株式会社、劇団NL T、白水社、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、日本映画テレビプロデューサー協会、前進座、オペラシアターこんにゃく座、木山事務所、田實碧、講談社、日本ウニマ(国際人形劇連盟)、丸善出版株式会社、亀井克朗、粹者、長谷川房子、世田谷文学館、田中照禾、森崎事務所、河東節十寸見會、社団法人日本演劇協会、日本近代文学館、秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場、スイセイミュージカル、ペテカン、滋賀県文化振興事業団、国立歴史民族博物館、にぎやか談話室、森眞治

どうもありがとうございました

「図書館総合展」 フォーラム

【専門図書館のファンドレイジング～日米資金調達の実例報告と今後の問題～】

報告

報告者：須貝弥生

2013年10月31日に「図書館総合展」で開催される“専門図書館協議会”のフォーラム【専門図書館のファンドレイジング～日米資金調達の実例報告と今後の問題～】に参加しました。

図書館総合展とは、図書館業界最大規模のイベントで、図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、“図書館の今後”について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていく場です。毎年秋に開催され、第15回となる今年は、10月29日（火）～31日（木）までの3日間パシフィコ横浜で開催されました。会場では、図書館に関する様々なテーマのフォーラムやプレゼンテーション、企業による最新の技術や動向が伺えるブース出展など、多数の企画が開催されます。図書館関係企業や図書館の職員だけでなく、一般の方も参加できます。



当館が会員となっている“専門図書館協議会”もこの総合展に参加し、展示ブースを出し、あわせてフォーラムを開催しました。

フォーラムでは、今年は図書館界でも関心が高まっているファンドレイジング（非営利団体が活動のための資金を個人、法人、政府などから集める行為）について、【専門図書館のファンドレイジング：日米資金調達の実例報告と今後の課題】と題し、大阪のアジアセンター21 アジア図書館、アメリカのイエール大学図書館（Yale University East Asia Library）、そして当館もパネラーとして招かれ、須貝がREADYFOR?における松竹大谷図書館のクラウドファンディングについて事例報告を行いました。

共にパネラーとして参加された大阪のアジアセンター21 アジア図書館の坂口勝春氏のお話は、30年前アジア関係の本を読みたくて公立の図書館にリクエストしたところ取り上げてもらえなかったのをきっかけに、それならば民間の手でアジアと日本をつなぐ図書館を作ろうと寄附やボランティアを集めて、アジアとの交流の拠点となる図書館を目指して活動を続けているということでした。民の力の体現者です。

もう一人のパネラーであるイエール大学の東アジア図書館の中村治子氏は、アメリカの寄附文化の土壌を背景に、巨額の寄附金を獲得するイエール大学の事例を報告されましたが、図書館のカウンターで学生などの利用者一人一人に親身になって対応することこそ大切で、「この図書館があってよかった」「お世話になった」と思う気持ちが寄附をする行動につながる、と話されました。

立場は違えども当館にとって大変参考になるお話でした。

モデレーターの中部大学・松林正己氏のアメリカの寄附文化についての解説も非常に興味深く拝聴しました。

自館を出てこのような場に参加し、それぞれ特色のある図書館や関係者の方と交流して、自館のために為すべきことをあらためて認識しました。登壇者でありながら、50人ほどの受講者とともに、多くのことを得たフォーラムでした。



第38回松竹大谷図書館所蔵資料展示 映画における「忠臣蔵」展

展示期間:2013年11月1日~11月27日/於 閲覧室



「忠臣蔵」の映画化は明治40年(1907)に本郷座で封切られた「忠臣蔵五段目」が最初といわれています。これは歌舞伎俳優11代目片岡仁左衛門の襲名を記念して舞台を撮影したものでした。そして日本映画がトーキーの時代に入ると、1932年に日本映画初の大長編トーキー映画「忠臣蔵 前篇 赤穂京の巻・後篇 江戸の巻」(松竹)が作られます。これは忠臣蔵映画としても初のトーキーです。1938年には日活がマキノ省三没後十周年記念映画として、「忠臣蔵 天の巻・地の巻」を製作します。戦況が逼迫した1941・1942年には「元禄忠臣蔵 前篇・後篇」が作られます。綿密な時代考証に基づいた実録もので、実際に松の廊下などの原寸大のセットが作られ、演出もリアリズムが追求されました。

終戦後は、仇討や忠誠心などのテーマがGHQに問題視され、忠臣蔵の映画は影をひそめます。1952年に本格的な忠臣蔵映画として「赤穂城」(東映)が製作されますが、題名に「忠臣蔵」がなく、配慮が見られます。1953年には新東宝が「珍説忠臣蔵」を製作しますが、これは喜劇の常連を揃えたドタバタコメディで、新東宝が撮った唯一の忠臣蔵映画でした。戦後初めて「忠臣蔵」を題名に使った本格的な作品は1954年松竹製作の「忠臣蔵 花の巻・雪の巻」で、松竹の時代劇俳優、現代劇俳優、そして歌舞伎俳優らが総出演しています。1957年には歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の名場面を映画的にアレンジした「大忠臣蔵」が製作されます。忠臣蔵映画初のワイド・カラーでもあります。

忠臣蔵が題材の映画は、作品の規模が大きく、忠臣蔵映画を撮るということは即ち、それだけの大作が作る力があるという、会社の威光を示す機会でもありました。例をあげますと、1958年に大映が大映創立十八年を記念して「忠臣蔵」を製作しています。長谷川一夫が初の大石内蔵助を演じた講談調の娯楽作品です。東映は1956年に東映創立5周年記念映画として「赤穂浪士」を製作しますが、1959年にも東映発展感謝記念映画として「忠臣蔵 櫻花の巻・菊花の巻」を製作しています。東映のオールスターが勢揃いし、美空ひばりも女間者を演じ華を添えています。1962年には東宝が東宝創立30周年記念映画として「忠臣蔵 花の巻・雪の巻」という実録や通説を織り交ぜたリアルな作りの作品を製作しました。

その後、時代劇の衰退もあって忠臣蔵の映画製作はしばらく途絶えますが、1978年に東映が「赤穂城断絶」を久々に製作します。萬屋錦之介の熱演が注目された作品でしたが、この後、映像としての忠臣蔵は主にテレビなどに作品の場を移します。そして時を経て、1994年に二本の忠臣蔵映画が製作されます。まず、市川崑監督の「四十七人の刺客」。大石内蔵助と吉良・上杉側の司令塔、色部又四郎との謀略戦争を軸に描いた新しい解釈の作品です。そして深作欣二監督の「忠臣蔵外伝 四谷怪談」。これは忠臣蔵の世界と表裏一体の、鶴屋南北原作の怪談「東海道四谷怪談」を映画化した作品です。近年では2010年に、赤穂浪士の吉良邸討入り事件後、それぞれの使命のため密かに生き残った二人の男の物語を描いた「最後の忠臣蔵」という、後日譚ともいえる作品が製作されています。

また、忠臣蔵は、時代や設定を置き換えた作品も多く作られました。1963年には、忠臣蔵を骨子にとったアニメ「わんわん忠臣蔵」が製作されています。日本犬「ロック」が母の仇の虎「キラ」を47匹の犬と共に成敗する話で、手塚治虫が原案構成として携わっています。また番外編として、変わった作品をひとつご紹介します。1958年松竹製作の「渡る世間は鬼ばかり ポロ家の春秋」は、一軒のポロ家の居住権争いを描いた喜劇ですが、赤穂浪士の末裔を名乗る詐欺師を追って播州赤穂へ降り立った主人公の佐田啓二と有馬稲子が、義士祭で賑う市内で詐欺師を追い掛け回す場面があります。その赤穂浪士の行列は、なんと子どもたち!小さな大石内蔵助と赤穂浪士たちが可愛いシーンです。

次の展示は、『芝居における「忠臣蔵」』展をお届けします。

●展示資料一覧●

「忠臣蔵 前篇 赤穂京の巻・後篇 江戸の巻」スチール

1932年松竹/衣笠貞之助(監督+脚本)/主な出演:3代目阪東寿三郎、林長二郎、市川右太衛門

「忠臣蔵 天の巻・地の巻」スチール

1938年日活京都/マキノ正博(「天の巻」監督)、池田富保(「地の巻」監督)/山上伊太郎(「天の巻」脚本)、瀧川紅葉(「地の巻」脚本)/主な出演:片岡千恵蔵、嵐寛寿郎、阪東妻三郎

「元禄忠臣蔵 前篇・後篇」スチール

前篇:1941年松竹+興亜映画・後篇:1942年松竹京都/溝口健二(監督)/原健一郎+依田義賢(脚色)/真山青果(原作)/主な出演:河原崎長十郎、中村翫右衛門、嵐芳三郎

「珍説忠臣蔵」台本

1953年新東宝/斎藤寅次郎(監督)/八住利雄(脚本)/主な出演:古川緑波、深川清美、木戸新太郎

「忠臣蔵 花の巻・雪の巻」スチール

1954年松竹京都/大曾根辰夫(監督)/村上元雅+依田由健(脚本)/主な出演:8代目松本幸四郎(=初代松本白鸚)、高田浩吉、滝沢修

「大忠臣蔵」スチール

1957年松竹京都/大曾根辰夫(監督)/井手雅人(脚本)/主な出演:2代目市川猿之助(=初代猿翁)、3代目市川団子(=2代目市川猿翁)、初代水谷八重子

「忠臣蔵」台本

1958年大映京都/渡辺邦男(監督+脚本)/八尋不二+民門敏雄+松村正温(脚本)/主な出演:長谷川一夫、市川雷蔵、鶴田浩二

「渡る世間は鬼ばかり ポロ家の春秋」スチール

1958年松竹大船/中村登(監督)/椎名利夫(脚色)/梅崎春生(原作)/主な出演:佐田啓二、有馬稲子、多々良純

「忠臣蔵 櫻花の巻・菊花の巻」台本

1959年東映京都/松田定次(監督)/比佐芳武(脚本)/主な出演:片岡千恵蔵、初代中村錦之助(=萬屋錦之介)、長谷川裕見子

「忠臣蔵 花の巻・雪の巻」プログラム

1962年東宝/稲垣浩(監督)/八住利雄(脚本)/主な出演:8代目松本幸四郎(=初代松本白鸚)、加山雄三、三橋達也

「わんわん忠臣蔵」台本

1963年東映動画部/白川大作(演出+脚本)/飯島敬(脚本)/手塚治虫(原案構成)/声の出演:堀絢子、木下秀雄、水木蘭子

「赤穂城断絶」台本

1978年東映京都=東映太秦映画村/深作欣二(監督)/高田宏治(脚本+原作)/主な出演:萬屋錦之介、島英津夫、藤岡琢也

「四十七人の刺客」プログラム

1994年東宝/市川崑(監督+脚本)/池上金男+竹山洋(脚本)/池宮彰一郎(原作)/主な出演:高倉健、中井貴一、宮沢りえ

「忠臣蔵外伝 四谷怪談」スチール

1994年松竹/深作欣二(監督+脚本)/古田求(脚本)/主な出演:佐藤浩市、高岡早紀、津川雅彦

「最後の忠臣蔵」プログラム

2010年ワーナー・ブラザーズ映画/杉田成道(監督)/田中陽造(脚本)/池宮彰一郎(原作)/主な出演:役所広司、佐藤浩市、桜庭ななみ

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2013（平成25）年10月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

公益財団法人 昭和池田記念財団

個人（50音順・敬称略）

大西忠子

佐藤半次郎

谷本宗生

森政美

どうもありがとうございます

■ 休館のお知らせ ■
平成二十五年十一月二十二日（金）は創立記念日のため休館とさせていただきます。

■ 行ってきました ■

島根県立美術館で十一月四日まで開催されていた『出雲阿国展』に、松竹大谷図書館所蔵の『かぶきのさうし』を出展しました。都外では初めての展示となります。せっかくの機会ですので、観光を兼ねて島根を訪れてきました。

宍道湖畔にモダンな姿を映す県立美術館は、その夕景の美しさでも知られています。建築のデザインも美しく、各展示スペースも広くゆったりとしていて見やすい作りになっています。展示のサブタイトルに「天下」のアイドルの系譜―初期歌舞伎図から寛文美人図まで」とあるように、「洛中屏風」から始まって、芝居小屋の風景を描いた屏風絵や、遊女や役者の絵姿：と豪華絢爛な作品が集結しました。特に今回は京都大学付属図書館、大和文華館、松竹大谷図書館所蔵のかぶき草子が並べて展示されましたが、現存するかぶき草子三点が一堂に会するのはこれが初めて。実際に目にするのと、ひとくりに「かぶき草子」といってもそれぞれ全く異なる特徴がありその資料的価値の大きさに気づかされました。目にも美しく美しいだけでなく、どのようか「かぶき」の人氣が広がっていったか推察できるという面白い切り口を提示してくれた良い展覧会だったと思います。

(三)



● 利用案内 ●
開館時間
平日午前10時～午後5時
休館日
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびウェブサイトに掲示します。
入館料 無料 館内閲覧のみ
● 交通案内 ●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分